



雨の日限定？カニ散歩

今年の夏はとて暑かった。私たちのように夏はほぼ野外での活動が主となる者にとって、熱中症との戦いの毎日でした。この暑さはいつ収まるのかと不安でしたが、9月の声を聞くとともに、すっかり秋めいてくるものですから四季というのは本当に不思議です。

今年は四季が少しズレているのか、初夏にしか産卵しない魚が4月から繁殖をはじめ、8月末でも繁殖行動をとっていました。それは、カニにもあてはまりました。このあたりにはケフサイソガニという水中の転石帯が好きなカニとクロベンケイガニという泥や土の河岸に穴を掘って棲むクロベンケイガニやベンケイガニというカニが生息しています。前者は5月？7月、後者は6？8月に繁殖期をむかえます。しかし、9月に入った先日、卵をたくさん抱えたケフサイソガニを発見しました。やはり、今年は少々季節のズレが生じているのかもしれない。

クロベンケイガニやベンケイガニは意外な場所にも訪れます。それは、大島小松川公園の広場であったり、東大島の街の道路や東大島駅のロータリー付近でも発見されます。カニというとみなさんは水中の生きものという印象が強いようですが、これらのカニは水があまり好きでないようにしか思えません。雨が降って川が増水でもしよものなら、流されたくない陸地へ避難してくるくらいです。

雨の日によく歩道でカニを見たという話は、増水から避難をしてきたカニや、体が乾かなくて済むため、より水辺から離れた場所へエサを求め移動してきたカニである可能性が高いのです。いつもは水辺に棲んでいるカニをちょっと違った場所で見つかるのは、この地域が水辺と接した街であり、旧中川の水面が陸地と近いおかげなのかもしれません。雨の日には歩道を歩く際には、少し足下に注目してみると、意外な場所で可愛いカニが散歩している様子が発見できるかもしれませんよ。



恒例「年忘れ お笑いのいぶ」開催決定!

12月12日(土) 14時開演(予定)



今年も豪華出演者が勢揃い。詳細はカルチャーナビ KOTO11月号で。

公益財団法人
江東区文化コミュニティ財団

江東区東大島文化センター

電話 03(3681)6331

FAX 03(3636)5825

〒136-0072

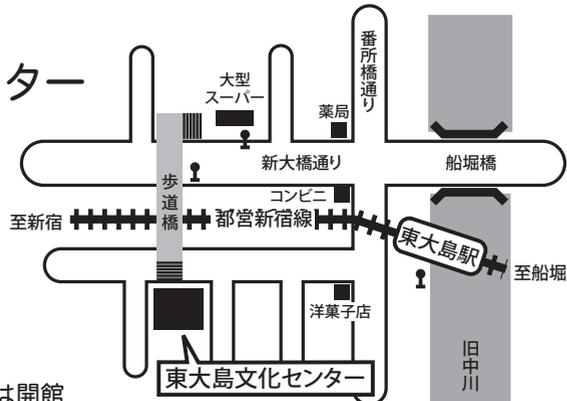
江東区大島 8-33-9

【交通】都営新宿線「東大島駅」

大島口より徒歩5分

【休館日】第1・3月曜日休館

ただし国民の休日にあたる場合は開館



東大島文化センター ニュース



江東区「四神」モニュメント完成!



東大島駅前広場には、中国古代の思想に由来する「四神」の一つである「青龍」が設置されています。区内にはこれまで、亀戸の「玄武」、東大島の「青龍」、若洲の「朱雀」の3つのモニュメントが設置されていました。

そして今回、9月24日(木)にオープンする豊洲シビックセンターに「白虎」が完成。すべての四神がそろうこととなります。

index

page	
1	秋の講座・江東区「四神」のご案内
2	施設のご案内・連載「ぶらり小名木川」
3	連載「ぶらり小名木川」
4	連載「コラム」・イベントのご案内

秋の講座ご案内

羊毛フェルトでかわいいペットを作ろう! ～ワンちゃん・ネコちゃん編～



羊毛で作られている羊毛フェルトでかわいいワンちゃんやネコちゃんを作ります。羊毛でしか出せないあたたかみのある作品作りを目指します。自分の家のワンちゃん・ネコちゃんをモデルに世界にひとつだけのかわいい子を作ってみませんか。講座では、2体を制作します。

- 全8回 火曜日 11/10、24、12/8、22、1/12、26、2/9、23
- 講師 日本羊毛フェルトクラフト協会代表 渡邊加奈子
- 時間 14:00～16:00 ●定員 20名
- 受講料 10,500円(全8回分)教材費4,000円(全8回分)

このほかにも、様々な講座を開講します。詳細は、センターHPまたは窓口で。

◆お申込み・お問い合わせ◆

東大島文化センター
☎ 3681-6331

東大島文化センター 施設紹介 part 2

レクホール、AV・ホール



レクホール



AV・ホール

東大島文化センター 4階には、可動式舞台、グランドピアノ備付のレクホールとアップライトピアノ備付のAV・ホールあり、講演、式典、舞踊、演劇、発表会、オーケストラ練習など多目的な用途でご利用いただけます。

・レクホール(定員250名) ・AV・ホール(定員80名)

他にも、会議室、研修室、和室、茶室、美術室、音楽スタジオがあります。ご利用については、お気軽にご相談ください。

※施設は有料です。施設・時間帯により利用料金が異なります。

次回は、和室、茶室の紹介をします！



小名木川

小名木川リバーガイド倶楽部

会員 下山敦司

『小名木川の段差』

最近ではバリアフリーばかりで段差等はなるべく無くすか、スロープにするように求められている。しかし、どうしても無くせない段差が小名木川にある。この川は江東区を東西一直線に横断する全長4.64kmの運河で、400年以上前、徳川家康によって造られた。平面図上の形は開削当初と変わらないが、断面図的には大幅な変化を遂げた、つまり川の途中に段差が出来たのだ。扇橋閘門である。閘門はロックゲートとも呼ばれ水位の違う一本の水路を、前後の扉で仕切って水位を調節し、船が通行できるようにした設備で、同様なものとして、より大規模なパナマ運河が有名である。

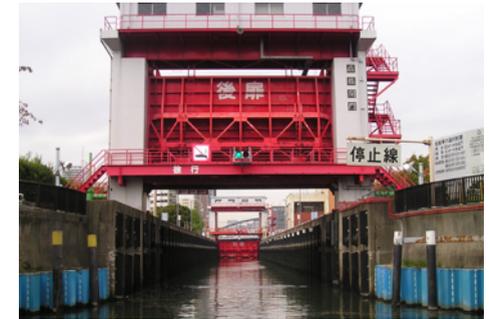
残念ながらこの段差をバリアフリーにすることは出来ない。閘門は水のエレベーターとも言われるのでその意味ではバリアフリーと言えなくもないか？

当区は大正末期頃より地盤沈下に悩まされてきた。沈下した分 相対的に河川水位が上昇、堤防の嵩上げを幾たびも繰り返す羽目になった。(昭和27、33、35、37、48年と5回実施)。小名木川周辺に出来た多くの工場が地下水や水溶性天然ガスを採取した為である。昭和31年からこれ等を規制する幾つかの法律が次第に整備され、また、多くの工場も舟運に見切りをつけ移転したため、昭和50年頃に沈下は収まった。その時点で最大で4.5m以上(南砂2丁目付近)の沈下を記録した。

と言うことでカミソリ堤防(薄い 良くキレル のシャレ)はそのまま、相変わらず高い堤防に遮られ、街中から川は殆ど見えない状態が続いた。この情景を見事に詠んだ句がある。昭和の俳聖と呼ばれる 石田波郷の「雪敷ける町より高し小名木川」この句碑は進開橋の南詰にある。尚 波郷についてはTV等で有名な「砂町銀座」近くにある、砂町文化センターの波郷記念館がお薦めだ。(無料)

(右頁につづく) →

昭和52年5年の歳月と30億円の巨費を投じて扇橋閘門が完成した。これで閘門東側の内部河川の水位を下げる事が出来るようになった。現在、閘門の東側はAP:-1mの水位に調整され、定水域と呼ばれる、低い水面の川となっている。



【江東区の東西をつなぐ小名木川と扇橋閘門】

また、閘門の西側は隅田川に繋がっているため、その水位はほぼ東京湾

の潮位に等しく、絶えず変化するので感潮域と呼ばれる。東京湾の満潮位は平均AP:+2.1m、定水域はAP:-1m、つまり最大水位差は3.1mとなる。船でここを通過するとき 特に西行きの時は3.1m 船が上昇するので視界が一気に開け、一寸した感動を覚える。これは当センターの「小名木川リバーツアー」で体験できるのでぜひ御参加を！とCM・・・

(因みに AP:0m は東京湾の最干潮時の水位。エーピーは ArakawaPeil の略でオランダ語 水準線の意 明治末期に始まった荒川開削工事の基準として用いられ、以後も水位の基準として使われている)



【扇橋閘門内の水位表示】

更に、ここには閘門をバイパスする形でサイホンが設置され、常時102t毎分の水を隅田川側から定水域側に流す。小名木川始め、これに直接繋がる旧中川、横十間川、北十間川等の内部河川水の浄化が目的である。この水は他の水門 樋門等からも取り込まれ、1日当り45万t以上にも及ぶ。定水域の水が3日間で全て入れ替わる量とされている。これにより内部河川の水質は大幅に改善され水中生物や水鳥も多く見かけるようになった。また、増えた水は旧中川の北端にある木下川(きねがわ)排水機場のポンプで汲み上げられ、荒川に放流される。これで定水域の水位を保持しているのだ。

26年度に終了した小名木川護岸改修工事は、これまで街と川を隔てていた高い堤防を切り下げ、更に両岸に遊歩道を整備することで、人と水辺を近づけ、親しめるよう考えられたものと聞く。

水彩都市を標榜する江東区 多くの河川と接する地の利を活かし、区民が水辺に親しめるよう、活用できるよう、更に5年後のオリンピック等も見据えた、大きなビジョンを持ちたいものだ。

ついでに言うなら小名木川をオリンピックの新競技に使ったら？(例えば舟の綱引き的な)430年の運河の歴史を諸外国にもアピールするのに絶好の機会、場所と思うが如何だろうか。

